



春日小だより

令和7年6月3日
練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子
学校通信 6月号

話の「聴き方」

校長 後藤 京子

6月1日の体育発表会には、大勢の方にご来校いただき、子どもたちに温かい声援を送ってくださいまして、ありがとうございました。練習の前半は、気温が高く、暑さ指数と水分補給に配慮し練習を行ってきました。後半は気温の低い日が多く、暑さの心配はありませんでしたが、延期になり、保護者の皆様にはご心配をおかけしました。体育発表会では、子どもたちは努力の成果を精一杯発表することができました。保護者の皆様には、練習期間中、日頃にもまして、お子さんの体調管理や体操服のご準備など、ご協力いただきましてありがとうございました。

突然ですが、「春日小学校のよいところはどこですか？」と聞かれると真っ先に自慢したいことがあります。「話の『聴き方』がすばらしい」ところです。毎週月曜日には全校朝会があります。看護当番の先生が「前へ ならえ」「なおい」と整列を促すと、列を崩すことなく、子どもたちが気を付けの姿勢と共に「ザッ」という手を下ろす音が体育館に響きます。

「6年生の当番のをお願いします。」6年生が週の出来事や看護当番の目標の振り返りについて話をする、子どもたちは、「はい」と返事をします。

「校長先生のお話です」の紹介の後、校長は体育館の壇上に上がりますが、体がぐらぐらしたり、話し声がしたりすることがありません。

一般的に言われる「聞く」とは、自然と耳に入ってくる音を聞くことです。しかし、春日の子どもたちが行っている「聴く」は、

○話す人の方を向いて聴く。

○目と心と耳で聴く。

です。春日の子どもたちがどうして話の聴き方が良いのか、何人かの子どもにインタビューを試みました。

◎「去年の担任の先生が、『話はちゃんと集中して聴きましょう』『話をしている人の方を向いて聴きましょう』といつもおっしゃっていたからです。」

◎「全校朝会の校長先生の話聴いていると、学校生活に生かせることがあるからです。『あじさいの花の色の違いについて』『電車の中の傘の話』は心に残っています。」

日頃の学習では、教師は子どもたちの前でいかに話を最後まで聴いているか、よく観察するように伝えています。一方的に話すだけでは子どもたちは聴いていません。話す内容を端的にしたり、子どもたちが興味をもつ内容を選んだりすることはもちろんですが、「はっ」とするような表現だったり、声色を変えたり、声の大きさやしゃべる速さを工夫したりすることで話に引き込まれるようになります。

今後も私たち指導者は、子どもが分かるように伝え方を工夫するとともに、子どもの「聞き方」ではなく、「聴き方」のスキルを高めていきます。そしてそれを「分かる授業」につなげていきたいと考えています。

【お知らせ】

6月の学校公開について

6月14日（土）の学校公開については、全学級3時間とも授業公開をいたします。インフルエンザ等、感染防止にご注意のうえ、ご参観ください。授業予定等につきましては別途sigfyで配信された文書をご確認ください。

学校徴収金の返金処理について

先日、各社報道でも出ましたが、学校徴収金の返金に関して改めてご説明いたします。練馬区では、教材費等の学校徴収金は、原則現金ではなく、ゆうちょ銀行からの引き落としで行っております。ノートやドリルなど、個人で使うものは、それぞれ集金を行い支払うので、返金が発生することはありません。しかし、移動教室でのキャンプファイヤー薪代など、集団で1つのものを購入する際には、かかった費用を人数で等分して負担するため、どうしても端数が出る可能性が高いです。残金が出た場合、1円単位まで可能な限り返金処理を行います。それでも返せなかった一人1円未満の返金に関しては、練馬区教育委員会の指針にもあるように、公的機関への寄付で処理することをご了承ください。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。